

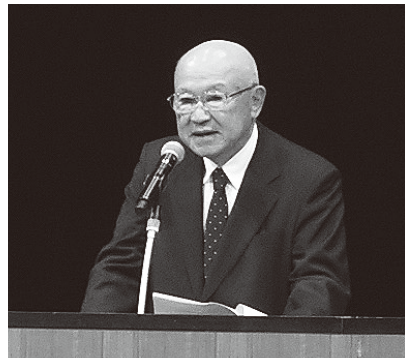


UHB 大学35周年を迎え入学式

4月12日道新ホールにて35期生26人を迎え入学式典が開催された。

式の初めに加藤雅規北海道文化放送社長(当時)が「生涯学習の場にUHB大学を選んでいただきありがとうございます。外で気軽に人に会えない2年間が続き、また感染の波が止まなく不安で家にいる日々が続いている方も多いと思います。集って入学式が出来ることが嬉しく参加していただいて感謝致します。

UHBは開局50年になり、半世紀の大きな節目です。フェルメール展など大きな事業を企画しています。国内で見られるのが最後だと言われているフェルメールブルーの世界をご覧頂



きたいと思います。皆さん学びきつかけはいろいろあると思います。気になった事を調べると繋がってない事が繋がってみたい面白い事がいっぱいあります。感染に用心して学びを続けて下さい。そしてUHB大学で面白い事をつかんで下さい」と祝辞を述べた。

続いて加藤紘之学長が「新入生の皆さんの入学を心から歓迎申し上げます。UHB大学は一般教養講座、選択講座があり、学ぶ事がたくさんあります。体調にも気を付けて続けて頂きたい。日本は世界有数の長寿国です。和田秀樹の著書に80

歳の壁というのがあります。人生80歳の壁を越えたら、その後幸せな20年とても楽しい人生が待っている。それには一つ目食事について、食べたい物を食ましよう。肉を食べよう、噛めば噛むほど身体と脳がイキイキしてくる。二つ目健康について、医療に頼るな。これには異論もあります。予防、早期発見は高齢者の権利です。是非信頼できるかかりつけ医を見つけて定期的に診てもらって下さい。三つ目は外に出て周りの人とおしゃべりする事の大切さを知ろう。引きこもると脳は暗くなる。学びをやめたら年を取る。行動とおしゃべりは学びの先生だと言っています。学ぶ事の大切さを実感して、新しい人生の喜びをUHB大学で得て下さい。35期生の皆さんへの歓迎の言葉とします」と温かく迎えた。

新入生を代表して松田清彦さんが「新しい刺激を求め好奇心を抱いて、仲間と共に活動していきたい」と挨拶した。在校生を代表して32期生の中垣美恵子さんが、「本年35年を迎えたUHB大学での出会いを大切にしていこう」と歓迎の言葉を述べた。

記念講演は北海道大学総長

寶金清博氏が「社会と大学」と題して、「ものを考えて新しいものを作り出すのが大学であり、良い国や地域には良い大学や学術がある。大学と社会は連動している。そして大学改革の柱として光は北から、北から世界へ、研究の北大をスローガンに掲げて北大の取り組みは動き出して、少子化対策、ウィンカルチャー、水産業の共創など様々である。また、世界は新型コロナウイルス、ウクライナ戦火、地球温暖化と大きな危機を抱えている。必要なのは、教育で次の世代の人材につなぐこと。そうすると困難な学術も芸術も大成して世界を変えることができる」と話し講演を締めくくった。

35期生は加藤学長を囲み記念撮影後、入学ガイダンスでは開講日の流れなどの説明を受け式は無事終了した。





新入生代表
松田 清彦
(35期生)

フレッシュな心

皆さんは僥倖(ぎょうこう)という言葉をご存知でしょうか。私がこの言葉を知ったのは今をときめく将棋の若きプリンス藤井聡太九段がプロデビューし29連勝の新記録を達成した時に発した言葉です。僥倖とは

「思いもかけない身分不相当な幸せ」を言うそうです。中学生だった彼が話したので大変驚いたのです。また、今年2月にも僥倖という言葉を目にしました。

それは第166回直木賞を受賞された今村翔吾さんがインタビューで感想を述べた中でも出てきました。今村さんは昭和59年生まれの38歳の若さです。家業のダンススクールの講師をしていたのですが、30歳の時にダンス講師をやめ小説家になりたいという夢に向かう事を決め

たそうです。今村さんは「小説家を目指して7年足らずで直木賞を受賞できたのは、自分自身でさえ少々出来すぎだと思う。幾つもの僥倖が重なった結果だと真摯に受けとめたい」と話していました。私が思うにこの二人に共通するのは常に前向きなフレッシュな心ではないかと思えます。

さて、私達35期生は僥倖ではありませんが、UHB大学に入学出来た事を幸せと感じ喜びと受け止めたと思います。私

としては高年齢でもあり、体力の低下も顧みず新しい刺激を求めて応募。幸い入学を許可されました。この伝統あるUHB大学の入学にあたり心底不安な部分もありますがフレッシュな心の今、新しいスタートに立って好奇心旺盛に35期生の仲間と共に仲良く楽しく学びたいと願っています。

本日は第6波のコロナ禍の下、このような盛大な入学式を開催して頂き、誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

関係者の皆様にはご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。35期生代表の挨拶とさせていただきます。



在校生代表
中垣 美恵子
(32期生)

楽しみながら生涯学習を共に

暖かい日差しが感じられる季節となり、今日の日を迎えられた新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。なかなか収まらないコロナ禍の中でUHB大学での学びを選択され行動に移されたことに敬意を表し、心

から歓迎申し上げます。

私のUHB大学の入学は3年前になります。以前の私は地方自治体での仕事に携わっていましたが、両親の介護と両立できず、50代後半に退職をしました。親の亡き後は肩の荷を下ろした方で、これからの自分に不安を感じ始めていました。そんな矢先にUHB大学に巡り合い、退化していく脳に刺激を与えられるかもと入学を決意しました。

一般教養講座はそれぞれの

専門分野の先生の講演があり、幅広く学ぶことができます。そして、午後からは選択した講座を受講するのですが、私は健康に関心があるのでヨガ講座で運動不足やストレス発散をしています。そして何より今までのお付き合いとはひと味違う多くの仲間との出会いもありました。10月には文化祭があり、各講座での活動成果を舞台で発表したり、個々の力作が揃った作品発表にも感心しきりです。他に日帰り旅行や講座対抗ボウ

リング大会、クリスマスパーティーなどの楽しい行事も盛り込まれていましたがコロナウイルスの影響で実施する事はできなくなりました。また、学生が自主運営し活動しているゴルフやパークゴルフの同好会もあり、講座の異なる皆さんとの交流を深める事もできます。

ある医療関係の方が、老化には医学的老化、外見的老化、精神的老化の三つの要素があり、それらはトライアングルのようにつながっているのだそうです。

特に精神的に若く、人付き合いや物事に積極的な人は筋肉と脳が適度に鍛えられ、免疫力も高まり病気のリスクも低下すると言っていました。

本年35年を迎えたUHB大学での出会いを大切にして一緒に生涯学習を学んで行きましょう。新入生の皆様の入学を心から歓迎し、お祝いの挨拶と致します。

令和3年度学位授与式

コロナ禍の中2年連続規模を縮小、感染予防策を徹底し
カナモトホールで開催された。

学位授与式典は3月17日午前10時半からカナモトホール2階の第一会議室で執り行われた。初めに、加藤学長が「ご卒業、修業される皆さん誠におめでとうございます。コロナ禍で社会生活が制限される中、学会や講義がオンラインで行われることが普通になり、世の中に大きな変化が起こりました。しかし人間関係においてはやはり顔を合わせて会談することが重要です。」



高齢者にとって強い関心事は認知症です。認知症の診断で多くの功績を残された長谷川式簡易知能評価スケールを開発した長谷川和夫さんが昨年91歳で亡くなりました。ご自身が認知症になりその実感を、よく認知症と題して新聞に連載していました。『周りの人と話し合うことで不安やストレスが減る。毎日を楽しむ今を大切に生き、出来ることを精一杯やろうと考えています』とても良いメッセージを残して下さいました。また、健康を維持し現在の心情は自然に帰る、家族の下に帰る、心の通う合う友と語ることです。友を大切にしながら、これからも健康チェックを行った上で逆らわず、怒らず、嘆かず、成り行きに任せ、しかし誉れ高く生きて行



きましよう」とお祝いを述べた。4年卒業の31期生20人、大学院名誉博士課程23期生5人、それぞれに加藤学長より証書が渡された。

大学院博士課程27期生10人を代表して下口順子さん、大学院修士課程29期生11人を代表して飯塚智子さんに証書が渡された。続いて6年間精勤の松本光義さん、明田利勝さん、4年間皆勤の窪田満さん、多田眞千子さん、4年間精勤の松岡倫子さんには学長より賞状と記念品が渡された。31期卒業生を代表して高橋春枝さんが「暖かな陽射しに春の訪れを感じる季



節になりました。本日はコロナ禍にもかかわらずこのような式典を挙げていただきありがとうございます。卒業という節目にあたり一人ひとりの胸に去来する思い出はいかばかりでしょう。私にとって毎週火曜日は知識の新風にあたり、友と語り合う日々であったと思います。多様な講座は時に点と点がつながるような感動を与えてくれ、生きる糧になつていたと気づかされます。入学翌年の平成30年9月6日に胆振東部地震が起き、実家のある町で37人の命が犠牲となり、森や道路が壊れ墓石が倒れるなど信じられない災害に見舞われました。その後、一般教養講座で北海道の地震・津波、この地震を客観視でき、土に還るお墓の未来が見え、前に踏み出すことができたのです。コロナで日常生活が変わり、入学時の記念



講演、動物が教えてくれたこと、自然の変化を指標に生き、食べ物を探して採る、子を育て命をつなぐ視点を忘れずに過ごしたいと思っています。UHB大学の運営スタッフの皆様にも心より感謝致します。これからもシニア世代が学び、リフレッシュできる大学として継続、発展することをお願い申し上げます。閉式にあたり「仰げば尊し」を声を出さずに心の中で斉唱し各期ごと学長を囲み記念撮影をし無事式は終了した。



同好会活動

パークゴルフ同好会

4月19日テレビ塔2階会議室「ライラック」にて定期総会が開催された。昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大を注視し活動は中止されたため、事業報告や決算報告はなく、令和4年度の事業計画(案)及び予算案が報告された。今年度は9人の新会員が入会し23人で5月から6回の例会がスタートする。

ゴルフ同好会

4月12日ギヤラリー大通美術館2階会議室において総会が開催された。2021年度の活動は新型コロナウイルス感染症拡大のため、5月からの第1回、第2回、第3回のコンペは中止し7月のコンペから第1回コンペとし活動を開始した。

また8月の第2回コンペは雨天のため中止となりオープンコンペを含め4回のコンペを開催。予定されていた納会は新型コロナオミクロン株の感染拡大のため中止とした事が報告され、続いて決算報告が承認された。

2022年度のコンペは5月から10月のオープンコンペまで8回の開催予定と予算案、新ハンディキャップが報告された。新役員紹介に続き、6人の新会員も紹介された。

新年度は27人の会員で活動をスタートする。

第2回コンペ(6月8日) エルムカントリー倶楽部 西コース				
優勝	種田 昌介 (UU会員)	N 69	H 26	
準優勝	泉 敏弘 (35期生)	N 69	H 36	
第3位	伊藤 正夫 (UU会員)	N 71	H 12	
第4位	川尻 晴夫 (UU会員)	N 71	H 18	
第5位	山元 健三 (UU会員)	N 72	H 24	

第1回コンペ(5月11日) 札幌リージェントゴルフ倶楽部 旧コース				
優勝	舘田 周二 (UU会員)	N 65	H 20	
準優勝	伊藤 正夫 (UU会員)	N 71	H 14	
第3位	半田 譲 (UU会員)	N 71	H 22	
第4位	佐藤 恵子 (29期生)	N 71	H 28	
第5位	里中 哲夫 (UU会員)	N 73	H 17	

※第3回コンペは雨天中止となった。

賑やかにプレーするのが楽しみ ゴルフ同好会は今年6人の新会員を迎え、女性4人男性23人総勢27人で年間8回のコンペを開催しています。

私は今年の春、75歳の誕生日を迎え後期高齢者の仲間入りをしました。同好会では、75歳以上の男性はフロントティーからのプレーが許されています。5月11日晴天の中、第1回コンペが行

われ、私は早速この特典を利用してもらい、5年ぶりの優勝をさせていただきました。

私は70歳の時、胃がんで胃袋の3分の2を摘出したほかに冠動脈バイパスと心臓ペースメーカー埋め込み手術を受けて命を長らえています。ゴルフと晩酌だけは止めることが出来ません。

同好会のメンバーはとも明るく元気、そして何より紳士淑女の皆さんです。

アマチュアゴルファーにはスポーツゴルフ、エンジョイゴルフ、健康ゴルフなど様々なタイプがあると思いますが、私は同好会の皆さんとワイワイ賑やかにプレーするのが楽しみです。

ただど…コンペとなるとやっぱり上位入賞したいと思う自分があります。ある先輩のゴルフがある時言いました。「少しでも上達したいと思う向上心がなくなったら自分はゴルフをやめる…」と。

向上心…これこそがボケ防止のためのなによりの妙薬ではないでしょうか。

おめでとう

★第69回写真道展(北海道新聞社、北海道写真協会主催)において第1部 自由、第2部 観光・産業、第3部 ネイチャーフォトで小林久勝さん(26期生)が入選されました。
★第63回北海道道展(北海道新聞社主催、道書道連盟、道後援)第4部 詩文書において小比賀秋水先生が入選されました。

おくやみ

心から冥福をお祈りします。
坂本 秀信さん(UU会員・5期生)
令和4年3月16日逝去されました。
川端 逸雄さん(UU会員・17期生)
令和4年3月16日逝去されました。
坂本 慶子さん(UU会員・4期生)
令和4年3月27日逝去されました。

編集後記

☆6月29日の株主総会において、北海道文化放送(株)は加藤雅規社長が退任し新社長には鶴井 亨が就任しました。
UHB大学事務局を運営している(株)トップ・クリエーション穀山敏相談役は退任しました。

発行
uhb 大学
事務局
札幌市中央区
北1条西14丁目
北海道文化放送内
(011)214-5225